

大阪・関西万博開催に向けた御意見

御所属 株式会社 Deportare Partners 代表御名前 為末 大 様

1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

- 「いのち輝く未来社会」。いのちを維持するのはテクノロジーでも可能性があるが、全体的としていのちが輝いている状態を保つことは難しくそこに取り組んでほしい。
 - 例えば、健康の定義。血中内の成分をよくするという健康ならエクササイズでよく、さまざまな方法がある。一方、必ず誰かとコミュニケーションを取るスポーツは、自分の立場を持ち、役割を果たし、他人と交流する幸福感を伴って健康につながっている。
 - 「自分は自分を生きている」と思うことはすごく重要。EC サイト等のリコメンド機能は最適解であるかもしれないが、自分の選択を奪い、主体性が失われ、幸福度を高められないかもしれない。そういう主体性のことも含めて「いのち輝く」につなげてはどうか。
 - 「いのち輝く」を維持することの難しさは、宗教をはじめとする世界の「分断」からきていると思う。世界における宗教や文化圏の「分断」を解決するテーマを象徴化して取り組めたらよいのではないか。
- テクノロジーでは中国のインキュベーション施設が先端であると感じている。2025年には日本は大きな差を付けられるのではないかと。そうすると、日本はむしろ最先端のテクノロジーでは解決できないものを持ち出し、世に問うていくというようなものがよい。
- これから文化と人権の衝突おこる可能性がある。多様性について考える機会はどうか。
 - 「境目」に興味がある。タイ北部の首長族では3～4歳の女の子に首輪を付け始める。人権団体は自己決定ができない女子が対象のため虐待の側面を主張するが、民族側は文化的なものとしている。
 - このようなことに対し多様性がキーになる。人権を完全に広げたら多様性がないのではないか等の議論も出てくるだろうし、上手な回答を探れないだろうか。

2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs 達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

- 「分断」を生む最たるものは宗教であると考えている。日本の独自性として、宗教が複数並び立つような状況でも OK であることを見せるのがよいのではないか。
 - 文明圏や宗教圏の括りのような定義づけで分けることをずっとやってきたのが西洋で、日本は、東洋的に定義づけによる分断を曖昧にするのがよいのではないかと考えている。
 - 日本は、宗教はすべて素晴らしいというような言い方ができる国である。例えば、リスペクトというワードで括って、会場の同じ場所にすべての宗教を集める試みはどうか。日本人の曖昧さが功を奏するのではないかと。

- アメリカや中国と違う日本的なテックの馴染ませ方、鉄腕アトムの世界みたいなロボットと人間と一緒に生きていて違和感がない世界観を創出できればよい。
 - 義足を作るプロジェクトをやっているが、人間とモノがうまく融合する分野は、最先端のテクノロジーで機能を盛り込みすぎるとテックが逆に浮いてしまう。
 - 義足は人間が装着していて自然に見えるかが課題。最先端とは逆の、社会に馴染んだ「え、これがテクノロジーなの」というようなテクノロジーの活用がよい。
 - 今中国で展開しているような最先端の「クール・テック」ではなく、日本は「人に優しい」テクノロジーがさりげなく使われているような状況がよい。
- 会場の人工島も自然と徐々に沈むということだが、水上住宅のコンペ等で沈むのであれば浮くという視点を提示できないか。
 - 温暖化を止めようという流れではあるが、オランダでは、温暖化が進み徐々に沈んでいくことを逆手にとって、沈んでも大丈夫な浮いた家のコンテストがあった。
- 従来のスポーツではないeスポーツの周辺の展開も考えられる。
 - 今のeスポーツはゲームに近くテクノロジーが介在している。ゲームとスポーツの間のもが出てくると、障がい者と健常者がよい勝負になると思っている。
 - 例えば、サイバスロン。比較的重い障がいのある方もロボティクスを付けて参加する。パラリンピックのロボティクス改良版のようなものだが、健常者と障がい者がよい感じで競争になる。
 - 逆パターンも考えられる。障がいを抱えた状況をバーチャル体験するようなのもよいかも。認知症のVRでの仮体験などもある。

3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

(例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等)

- 中心がないという万博会場コンセプトは面白い。西洋的価値観に対して面白い提案になるのではないかと。スポーツでも複雑性が高い状態から、秩序が生まれていくプロセス、カオス状態から移行の場面が、いちばん生命力が高いという話を聞いたことがある。
- 愛知万博で、竹村真一先生の「触れる地球」は同時接続を提唱していた。オリンピックでも、サイバー空間で100mを世界の人々が同時に走るなどができればよいと思っていた。この万博でも、同時接続でみんなが参加できるようにできれば面白いのではないかと。「みんな参加」が日本らしい。

4. そのほか、御自由に御意見をお願いします。

- SDGsやESG投資ともつながるが、最近のビジネスは何らかの社会課題解決型になっている。ここでもいろいろとやりようがあるのではないかと。